

神奈川山梨教会連合会だより

かりん

奥川美登子師は、奈良県斑鳩の里近くの王寺教会にて、楠木光治郎・年子夫妻の3人姉弟の次女としてお生まれになられました。幼少時代はすくすくとお育ちになられた美登子師でしたが、高校生の頃、お母様が末期の子宮がんに罹ってしまいます。

○若くてがんになられ、大変でしたね。

美登子師(以下美登子) 当時抗がん剤はま

だなく、手術で取り除くことになりました。医師からは手術前に「中を開けてみて手がつけれない状態なら、そのまま閉じます」と言われましたが、長時間に及ぶ手術は成功しました。がんが子宮の一番奥の方にあつたので、他の臓器への転移がなかったようです。おかげを頂き三ヶ月程で退院となりました。

○若いとがん細胞が体に早く回ると聞きますが、よかったですね。

美登子 ええ。母は体が少し弱くなったので、回復後は姉と私で手伝いをしていました。もし母ががんで死んでいたら、今の私はなかったように思います。

○若い頃は、金光教の教師になる気がなかったそうですが、考えが変わるきっかけは?

美登子 きっかけというか、父の「ある願い」が大きかったと思います。

後になって聞いたのですが、母ががんと分かった時、父は私達3人の子供に対して、割と具体的な願いを神様にしていたようです。その内容は、姉には「教会のそばにいて、母を助けられるようなご縁を頂きたい」、弟には「王寺教会の後

継」、私には「教会に嫁いで、教会の御用に立つてもらいたい」と言うものでした。

子供達は皆、そんな願

川でスベって山でコロんで……とってきました

Interview

第20回 奥川美登子先生(平塚教会)



いを立てているとは知りませんが、何かに導かれるようにそれぞれご縁を頂き、姉は教会近くに嫁いで母を助け、弟は後継者となり、私も25歳で今の教会長と結婚し、平塚教会へ嫁ぐことになりました。

○全ての願いが叶う、とはすごいですね。美登子 父のこの件を通して、「願いを立てる」ことの大切さを教わったように思います。

まず自分の願いは何か、と言うことははっきりさせる。それから神様に、自分の願いを具体的に細かく願わせていただく。ある先生が「願いの先に祈りがある」とご教話されていましたが、父の願いはまさしく祈りになって、神様に届いたのではないかと思います。

○先生のご結婚も、喜ばれたでしょう。

美登子 父は大変喜びましたが、母は少し複雑な心境だったようです。教会に嫁ぐことの大変さを実感していたので、しかも遠い教会に行くのは、心配もあったのでしょね。「反対はしないけど、手助けなど何もしてあげられないわよ」と言われました。その時は母に心配をかけないように頑張ろう、と思っていました。今思えば、私も母に何もしてあげられないのですよ。近くにいれば、少しでも何か手助け出来たのに。

それでも母が65歳で亡くなる2年前に、「あなたが教会に嫁いでくれて良かった。(教会家庭婦人としての)気持ち解って貰えるのが嬉しかった」と話してくれたことがありました。

両親の願いを受け、親に助けられおかげを受けて、私はここまで来られたけど、母もまた私のことを喜んでくれている。こう言うことが「あいよかけよ」という事なのかな、と感じました。

○ありがとうございました。

連合会と私

鎌倉教会 吉岡 裕子

連合会に関わるようになって、かれこれ六年になるのだろうか。何が何だか分らないままに、運営委員会や役員会などに顔を出しているうちに、気がつけば、神奈川山梨教会連合会の信徒部の次長と育成部の部長という何とも重いお役がっていた。その上に、必然的に関東教区信徒会の常任委員にもなっていて、なんと今年は役員改選があり、副委員長まで引き受けるはめになった。自分の立場に右往左往している間に、勝手にお役がついてきてしまったのだ。

しかし、それでも、そうこうしているうちに少しずつ分かってきたところもあり、お知り合いもできてきて、今年は何と、恐れ多くも、一回も参加したこともない関東信の一泊研修会まで任されてしまった。これまで私もそうだったが、関東信と言っても分らない方もおられると思うので少し説明させていただと、関東信は、神奈川山梨など五つの地連で構成され、ほぼ各月に役員会を開き、情報交換や各種の活動などを行っている。それはまた、全国の信徒会へと繋がっているとのこと。とは言え、そういうことも、何年か関わっているうちに分かってくることで、様々な活動や集会にしても、教会に報らされ、ポスターなど掲示

されたとしても、なかなか自らが参加するまでに至らないのが実態ではないだろうか。それにしても、関東信の一泊研修会には、百二十八人もの方々に参加して頂き、有意義な二日間を過ごさせて頂いた。中でも、役員の方々が快くお役を受けてくださり進んで関わってくださったことがありがたく、これからの活動に明るい展望が開けたようで何よりもうれしいことだった。

話は関東信のことになってしまったが、神奈川山梨の方では、育成部の担当も仰せつかり、「女性のつどい」と「親子のつどい」に関わっている。以前は全て連合会で企画運営していたのを、このところは各部に任されている。ともに目的は交流を深めること。特に「女性のつどい」は、教会を回らせて頂くようになって、多くの方々とお知り合いになり交流の輪が広がっている。また「親子のつどい」は世代を越えた交流の場として多くの方々に参加して頂いている。親子という名称になっているので参加者が制限されているかも知れません。どなたか適切な集会名を考えて頂ければありがたい。その他にも、いろいろな活動・研修・集会が開かれています。教師も信徒ともに声を掛け合い誘い合って顔を合わせましょう。そして話を聞き、語り合いましょう。そこから何かが始まると信じているのです。

かりんの輪



「祈る」

鶴見教会 内田 政宏

亡き母に連れられて、初めて鶴見教会にお参りさせて頂いたのは、確か私が十歳の時の時だったと思います。その時は宗教とか神様とか何も考えることはなく、先代桜井浅次郎先生の大きな顔、ギョロリとした目、お説教の時の大きな声、勿論お話の内容が分かる筈もなく、月例祭等の時は唯々長いお祝詞とお説教に足がしびれ、私にとって難行苦行、ひたすら我慢をしていたことが思い出されます。

その後、現教会長桜井信一先生のもとで、ボイススカウトの訓練中、団体生活のあり方、考え方を教えられ、後の人生の大きな示唆となりました。

社会に出てからは、長期の転勤や出向を経験し、中々お参りすることが出来ずかなり長い間、御無礼の期間が出来てしまいました。今、振り返ってみると、私が大過なく今までの人生を送ってこられたのも、私が教会に足を運ばず、御無礼を重ねてきた間、母の祈りのもとで守られて来たのだという思いで一杯です。

私は、ある病院の施設の中で仕事に就いております。その中で四歳の子どもと知り

親子のつどい'08

「そうだ、地引網しよう」

去る9月6日(土)、朝方の雨も上がりお日様が顔を出した三浦海岸に、続々と参加者が集まってきました。今年は何都圏布教120年という節目であり、首都圏の他連合会にも参加を呼びかけ、16教会89名の参加を頂きました。

11時30分、みんなで力を合わせて網を引き始めました。意外に重たい網に悪戦苦闘した甲斐あって、しばらくして見えてきたたくさんの魚影に大人も子供も大喜び。水揚げされた魚は、昼食のバーベキューで美味しく頂きました。

お次はスイカ割り、子供達はみんな、なかなかの剣豪です。そして最後に海岸のゴミ拾いをさせて頂いて、無事に終了しました。真っ赤に日焼けした肌みんな、夜はちゃんと寝られましたか？。



「女性のつどい」報告

九月四日(木)、今年は何都圏教会を会場に、女性のつどいを開催しました。

藤沢教会信徒の井上祐子さんを講師に迎えて、「音楽と私」と題したお話を聴かせて頂きました。合唱指導のボランティアから得たご経験、食の安全に関心を持ち、そこから関わった生活共同クラブのことなどのお話の後、歌唱指導があり、一同で昔懐かしい唱歌を歌って、楽しいひと時を過ごしました。出席者は二十六名でした。

(大塚 東子)

連合会信徒部主催

「講話と夕食の会」

お知らせ

▼十二月十三日(土) 午後三時～五時

▼神奈川教会 三階ホール

▼講師 小星重治氏(津久井教会信徒)

お話と質疑応答。

終了後は、七時まで懇親会をいたします。懇親会にご出席の方は会費千円。

内容は、写真の研究を続けて来られた小星さんが得られた、科学的な金光教の理解と仕事観のお話です。ご期待下さい。

合いました。彼は脳腫瘍という重度の難病に罹り、十歳までの生存率10%という診断が下されていました。患者への感情移入は不可と言われていましたが、私の孫とほぼ同年齢ということもあり、また妙に懐かれたこともあって、自分のこと以上に一生懸命ご祈念をいたしました。「他の人の為に祈る」ということを、この時ほど真剣に考えたことはありません。

折りしも首都圏布教一二〇年記念行事の中で、「祈りのノート運動」が行われました。私も妻も共々、毎日十人を目標に名前を記し、自宅での祈念を続けました。

数年前に肺がんの告知を受けましたが、その折りも教会の皆様をはじめ多くの方から「ご祈念しています。早く良くなってください」と励ましのお言葉を頂きました。神様の大きな庇護のもと、祈り祈られ、人と人とのつながりをより深く思い興されま

す。鶴見教会では教会長のご指導のもとで、金光教教典抄「天地は語る」をご信者が順番に読み合い、なぜ自分はその章を選んで読んだのかの話し合いを行っています。

第五章 三七一

「自分のことは次にして、人の助かることを先にお願ひせよ。そうすると自分のことは神がよいようにしてくださる」。

今後、この教えを胸に刻みたいと思います。

神奈川 山梨教会連合会

生神金光大神大祭日程

教会名	日 程	時 間
津久井	10月13日(祝)	13時00分～
横浜西	10月19日(日)	13時30分～
甲 府	10月19日(日)	13時30分～
登 戸	10月26日(日)	13時00分～
大 明	10月26日(日)	13時30分～
子 安	11月2日(日)	13時30分～
横 須 賀	11月3日(祝)	13時30分～
丸 子	11月3日(祝)	13時00分～
相 模 原	11月3日(祝)	14時00分～
鎌 倉	11月9日(日)	13時30分～
武蔵小杉	11月9日(日)	11時00分～
鶴 見	11月11日(火)	13時00分～
大 磯	11月14日(金)	13時00分～
野 毛	11月15日(土)	13時30分～
川 崎	11月18日(火)	13時00分～
平 塚	11月19日(水)	13時00分～
神 奈 川	11月22日(土)	11時30分～
小 田 原	11月23日(祝)	14時00分～
藤 沢	11月28日(金)	11時00分～
生 麦	未 定	
南 甲 府	未 定	

教師部・交流教話報告

教師部では、「首都圏布教二一〇年のお年柄に当たり、その意義について理解を深めると共に、今日求められる信奉者像を明らかにする」との願いのもとに、交流教話を実施することになった。

それは、首都圏布教(東京布教)が、教話(巡教)・団体参拝・教会連合会(教会会長会)を中心に、布教体制の構築が図られたことに基づくものである。結果取次は個人々人に対しての救いであり、教話は不特定多数の人を助け導くものであり、今年度教師部では、教話研修会をもって首都圏布教の意義を深め、八名の講師によって、左記の教会において、交流教話の実施を行った。

- ◇小田原教会 6月13日 須賀院明德先生
 - ◇平塚教会 7月7日 福田 光一先生
 - ◇神奈川教会 7月9日 奥川美智雄先生
 - ◇藤沢教会 7月12日 山田 尚子先生
 - ◇登戸教会 7月13日 高橋紀代士先生
 - ◇横浜西教会 7月27日 南 清孝先生
 - ◇相模原教会 8月7日 横山 光雄先生
 - ◇武蔵小杉教会 8月10日 安達 幸則先生
- (教師部次長 安達 幸則)

〈な・が・れ〉

『手紙から伝わるもの』

平塚教会 熊坂 和枝

「読み進めて行くと涙がポロポロこぼれてくる程、心の込められた手紙を拝見したことがありません。きっぱりと信じ通せる／＼とおっしゃる奥さまも、先生と同じような人間としての誠意が伝わってきて、今時、本気で人に接する人、心に残ったに出会うことはありません。この先、心に留め置き人に接して行こうと思います。自分に優しさが足りなくなったら、お手紙を取り出して読ませて頂きます。(原文のまま)これは、二十数年前に主人が受け持った子の親御さんから届いた返信です。

ケイタイや電信など、世の中がスピードになり過ぎた昨今、この夏に行き来した手紙から、私はかけがえのないものを頂いた思いでした。優しさの伝わる心、人を思いやる心は、主人共々金光様の御教えに触れさせて頂いているお陰です。

私は、平塚教会の奥川先生の元、長い歳月、信心の稽古でお世話になり、年を重ねて漸く、金光様に守られ通しのおかけに気づくことが出来るようになれました。「これもおかげだった」と思える日々を送らせて頂けることに感謝し、小さなことから役に立てよう願っております。有難うございました。

御教えの中から、良きことを思い良きことをなして、人にも喜ばれ、自分の命も喜ぶ生き方をしたいものです。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光一

横浜市神奈川区青木町六一二十五

〒221-0057 金光教神奈川教会内